

# 天文学とプラネタリウム

第148回



今月のお題

## 新発見の価値



研究者によって紡ぎだされる研究成果と、その一部を切り取ったプレスリリース。研究の価値を伝えるというのは難しいことです。

六本木「宇宙と芸術」展でも企画続々!



www.tenpla.net

高梨直純 (東京大学)

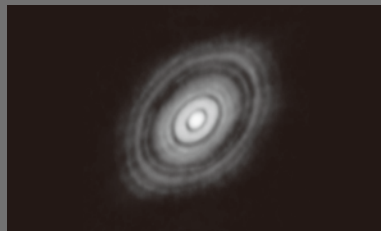
平松正頭 (国立天文台チリ観測所)

日々色々な天文台や大学から発表される天文学の新発見。研究対象の天体も、その手法も、研究チームの規模もさまざまです。私は業務として主にアルマ望遠鏡の広報の仕事をしていますので、その観測成果を伝えるプレスリリースを準備することも大事な仕事。やりがいのある仕事ですが、頭を悩ませることもあります。それは、どの成果を取り上げるかということ。

天文学の世界では、毎日 50 以上の論文が出ます。アルマ望遠鏡の観測をもとにした論文も、観測開始から 5 年で 400 を大きく超えています。研究者にとっては自らの大事な成果ですので広く知ってもらいたいと思うのは当然ですが、すべてをプレスリリースにすることはできず、大きく研究を前進させるもの、面白くて多くの方に関心を持ってもらえそうなもの、報道してもらえそうなものを選ぶ必要があります。また、何でもプレスリリースしてい

るとそれを読む側もどれが重要なのか判断しづらくなるので、インパクトがあるものを選んで出すことでメリハリをつける、ということも重要です。でも、選ぶのは簡単ではありません。私は星の誕生が専門なのでその周辺領域であれば研究のインパクトもわかりますが、例えば宇宙初期の話となるとその意義がすぐにはわからないことも。成果が報告される論文を読み、研究者に成果のポイントを確認し、時には他の研究者にも意見を聞いて判断します。研究者側から依頼があっても、条件を満たさない場合にはお断りすることも。これは、なかなか心苦しいものです。

海外の研究機関からも数多くのプレスリリースが出ていて、外国メディア経由で翻訳されて国内でニュースになることもあります。中には「これ何が新しいんだろう?」というものも。研究の詳細まで解説する日本の機関のリリースに対して、海外機関のリリースは非常に噛み砕かれた内



アルマ望遠鏡の代表的成果となった「おうし座HL星」を取り巻く塵の円盤。Credit:ALMA(ESO/NAOJ/NRAO)

容のものが多く、それがニュース記事になった上にさらに科学に詳しくない人の手で翻訳されると、研究成果の大事なところが抜け落ちてしまうことがあるのです。こうなると、その発見の価値はわからなくなってしまっています。

研究というものは本来は小さな成果の積み重ね。リリースされる成果は、ある観点で選び出されたごく一部です。発表時には重要視されずとも、時がたつにつれて重要性が増し価値が認められる成果も多々あります。派手なプレスリリースとその向こうにある無数の目立たない研究成果が、天文学の前進を支えているのです。

148

148